

# 鹿児島医セン

鹿児島医療センター(心臓病・脳卒中・がん専門施設)

2021.3 vol.179

## 定年退職のご挨拶

薬剤部長 尾之江 剛樹



### 定年退職を迎えて

昭和60年10月に国立対馬病院(現:長崎県対馬病院)に賃金職員として入職し、昭和62年4月から正式に国立療養所南九州病院で採用となりました。

入職当初は、処方箋も手書きで外来処方・入院処方を如何に捌くかが最重要課題だったような気がします、その後抗がん薬の薬物血中濃度測定、外来患者さまへの医薬品情報提供、抗がん剤無菌調整、薬剤管理指導料、病棟薬剤業務実施加算など様々な業務が保険点数化され、調剤主体の業務から医薬品情報提供など病棟での業務へシフトしてきました。

現在では患者さまに入院から在宅までスムーズに薬剤師が関わるべく近隣の薬局薬剤師の方々と連携して情報共有することの重要性がいわれるようになりました。当院でもがん薬物療法における連携の研修会をコロナ禍のためweb開催となりましたが多くの参加を得られ意識の高さに頼もしさを感じました。

今振り返るとあつという間の35年間でしたが、その節目となる副薬剤科長として1年間と定年までの3年間で鹿児島医療センターで勤務させていただき充実した日々を送ることができました。これも院長先生をはじめ皆様のご理解とご協力の賜物だと思います本当にありがとうございました。

最後になりましたが鹿児島医療センターの今後益々のご発展をお祈りいたします。

## 定年退職のご挨拶

臨床検査技師長 古野 浩



### 定年退職を迎えて

昭和57年6月に西別府病院に臨床検査技師として採用され、福岡東医療センター、佐賀病院、大分医療センター、小倉医療センター、鹿児島医療センターで6施設38年間勤めさせていただきました。思えば北部九州(大分→福岡→佐賀→大分→福岡)ばかりの異動でしたが、最後の2年間は当院でお世話になりました。これも何かのご縁ですね。

異動した6施設それぞれ病院の特色(結核、神経難病、周産期、循環器など)があり、スタッフの数(6人～30人)も違い、いろいろなことを学ばせて頂きました。

当院に赴任して驚いたのは、経胸壁心エコーの件数の多さと研修の受け入れでした。

研修については、学生の臨地実習はもちろんですが、特に民間施設や九州内の機構病院(中～上級者向け)からのエコー関連の検査です。今まで勤務した施設では民間病院からの研修受け入れはありませんでした(学生の臨地実習はありますが)。

臨床検査科に関しては、スタッフのみなさんが優秀で大変助けられました。また、検査科行事も花見、パーベキュー、鍋パーティー、バスハイクなどが企画され、検査科としてよくまとまっています。残念ながら今年度は新型コロナの影響で全て流れてしまいました。

逆に、コロナ抗原検査やPCR検査(主に術前)を院内で実施するようになりました。

個人的には趣味のランニングを通じて走友会に入会し、大学の先生、銀行員、警察官、県職員などいろいろな職種の方と出会うことができ、ストレス発散にもなりました。

残念ながら当選していた鹿児島マラソンは中止となってしまいました……

コロナ禍がいつまで続くかわかりませんが、鹿児島医療センター職員の皆さんが一つにまとまり乗り切っていくことを信じています。2年間お世話になりました。

## 定年退職のご挨拶

栄養管理室長 花田 道代



### ～出会いに感謝～

栄養管理室の花田です。

コロナ禍のなか、この3月31日をもって定年退職を迎えることとなりました。

昭和59年に、国立南九州中央病院に入職し、約37年間お世話になりました。

その間、数ヶ所の施設を転勤し、たくさんの方との出会いがありました。

鹿児島医療センターでの4年間では、特に令和2年度の診療報酬改定における栄養関連分野の拡大が評価されたにも関わらず、現状の置かれた様々な環境や「働き方改革の推進」に思慮したところですが、後輩に託す部分は多く、繋いで参りたいと思います。

しかし、部門での若いスタッフの成長ぶりが何よりも頼もしく、嬉しく感じており、パワーを貰いながら日々を送らせていただきました。

室長業務のなかでは、栄養食事指導等、直接、患者さんに関わる機会を多く与えていただき、患者さんから得る学びも「モチベーション」に繋がったとありがたく感じております。

転勤は、その施設・人・生活環境に慣れるまでに、多くの不安やストレスを抱えることも少なくはありませんが、赴任した先での部門の先輩後輩、先生方をはじめ多くの他職種の方とのご縁により、ご支援と温かさに支えられた「ながいながい時間」だったと思うと感謝しかありません。

これまで本当に有難うございました。

鹿児島医療センターの今後の益々のご発展をお祈り申し上げます。

## 新任紹介



心臓血管外科

川津 祥和

前回、鹿児島医療センターを離れるにあたって天文館で盛大な送別会を催して頂いたのですが、さあ乾杯と言うタイミングで急患の報が入り、慌てて医療センターに戻って手術をしたのが昨日の事の様です。割と最近で2019年8月の事です。あれから1年半も経たずにおめおめと戻ってきてしまいました。未知の病のせいであの頃とは患者さまや我々医療従事者を取り巻く環境は一変してしまいました。周囲の景色は変わっても、これまでと変わらず淡々と情熱をもって患者さまや御家族と真摯に向き合っていきたいと思います。





## 部門紹介

# メディカルサポートセンター

メディカルサポートセンターは、地域医療連携、入退院支援、がん相談支援を3本柱として、外来患者、入院患者、患者家族、地域住民の相談窓口として設置しております。

蘭田正浩地域連携部長、松崎勉がん相談支援センター長を始め、看護師、メディカルソーシャルワーカー（MSW）、臨床心理士、医療メディエーター、事務員と20数名の多職種で業務に取り組んでいます。それでは、私たちの職場を紹介させていただきます。

### ● 医療福祉相談

外来患者・入院患者及び地域住民のための相談窓口です。診療科相談、かかりつけ医の紹介、医療福祉・介護サービスの情報提供などのよろず相談になります。苦情・相談については、医療メディエーターや医事専門職が対応しています。



総合案内スタッフ

### ● 入院前支援

平成30年度に開設し3年目になり、現在は外来・病棟の協力を得て12診療科の入院前支援を行うようになりました。入院前支援専従看護師が入院前の患者が安心して入院生活や治療が受けられるように支援し、薬剤師・管理栄養士と連携を図っています。



入院前支援専従看護師

### ● 地域医療連携・退院支援

地域の医療機関や施設との連携を図り、患者の受診や入退院・転院の調整を行います。入退院支援カンファレンスの参加、患者の意向確認、在宅療養に移行する家族支援、退院前に必要な医療器具の情報提供、訪問看護ステーションとの連携を図り、地域包括ケアシステムが構築されるように働きかける部門です。退院調整看護師とMSWが協力し、患者一人ひとりに応じた支援を心がけています。



連携室事務スタッフ



退院調整看護師

## ● がん相談支援センター部門・がん相談業務

研修を受けた看護師・MSW、臨床心理士により、がんのことや治療、今後の療養生活、医療費の質問や相談に対応しています。緩和ケアチーム専従の緩和ケア認定看護師は、専門的な立場から外来・入院患者の支援を行っています。

昨年より、入院前支援プロジェクトチームの協力を得て、入院前支援の話し合いを続けております。11月には、業務の効率化のために、新しく入退院支援システムを導入し、入退院業務の可視化が可能になりました。患者、家族が安心して治療を受けることが出来るようにワン・ストップ・サービスを目指してサポートしていきたいと思っております。

(文責：退院調整看護師長 西辻 美佳子)



### ■お問い合わせ先

独立行政法人  
国立病院機構

## 鹿児島医療センター(心臓病・脳卒中・がん専門施設)

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号

(代)TEL 099(223)1151 FAX 099(226)9246 <https://kagomc.hosp.go.jp/>

【地域連携】 茜田・西田・西辻・篠崎・迫田・椎原・出口・吉留・櫻木・田辺・山之内・吉村

【がん相談】 松崎・新川・水元・原田・菊永・杉本

地域連携室専用 FAX▶099(223)1177

※休日・時間外は当直者で対応します。

